

とよなか 環境



ニュースレター

発行：NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21

編集責任者：奥野 享

事務局：豊中市環境情報サロン内

〒561-0804 豊中市曾根南町1-4-3

Tel:06-6863-8792 Fax:06-6863-8734

この号のハイライト

P.1 震災体験/P.2 農業分野チャレンジ/P.3 むし調べ/P.4 エコカレまとめ/P.5 省エネ推進事業/P.6 環境とわたし、書籍/P.7 環境政策室/P.8 今後のスケジュール

2011年(平成23年)夏号 NO.35 (通巻第53号)

震災をよそごとでなく自分の問題として肝に銘じている

3月11日午後2時46分、東日本を襲った大震災は地震に続く大津波で車両が押し流され、家も木も一瞬にしてなぎ倒された。豊潤な海岸沿いの町は無残な姿を晒し、のどかな田園風景は瓦礫の山と化した。あれからもうすぐ3か月になろうとするのに行方不明者はまだ8千人を超え、死者は1万5千人からまだまだ増えつつある。

被災に追い打ちをかけるように原発はメルトダウンして最悪の結果となり、被害の拡大は地震・津波・原発・緊急避難・風評被害などと五重苦を超えている。

今回の災害で思い出されるのは寺田寅彦の格言で「天災は忘れたころにやってくる」であるが、過去最大の地震でも安政大地震以来ほぼ70年周期で災害に見舞われている。しかも阪神淡路大震災以降はさらに間隔がつかまって地震が頻発。「活動期に入った」という観測こそ実感である。

被災地外の私たちは今も普段通りの生活の中において、

テレビに映る現実を劇場で観ているかのような錯覚に陥ってしまうが、もっと現実的な問題として感じなければと焦りすら覚える。

コラムニストの天野祐吉さんがテレビの深夜放送やテレビショッピングのテロップで「無駄な電気は消しましょう」「無駄な買い物は避けましょう」というのも最大の皮肉だが、滑稽よりもむしろ、それこそまともではないかと感心している。

原発事故の現状を見るにつけ、日本の電力需給体制の再構築が必須であることも、いよいよ痛切になっている。世界にも影響を与えつつ最大の環境破壊となつて、今も危機は続いている。

私たち自身が何をなすべきか、自問が必要である。適度な批判もときには必要だろう。為政者の振る舞いはもちろん、私たちも改めて現実の被災を己のものとし肝に銘じて振る舞いたい。(中村義世)

とよなか市民環境会議アジェンダ21 2011年度(平成23年度)総会

とよなか市民環境会議総会とNPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21総会は6月21日(火)午後「青年の家いびき」で開きます。

総会に先立ち、13時30分から関西大学環境都市工学部教授盛岡通さんの講演があります。

内容は「省エネルギーから本格的な低炭素型の安心な都市をつくること」現在もっとも喫緊の課題である話が聴けます。どうぞお友達も誘ってご参加ください。NPOアジェンダ21の総会は15時30分から。

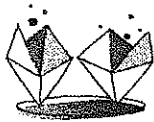
●総会に出席できない方は、委任状のはがきを忘れずにお送りください。まだ間に合いますから。

15周年記念行事は震災のことも考慮 内容を一部改め盛会でした

3月16日午後から行った15周年記念行事は震災直後であることも考慮し、予定を一部変更しながらも盛大におこないました。

15時からの佐藤徹さんの講演は、運動の草創期について語られ、「三つの〈感〉」にまとめて①地球環境への危機感、②垣根を越えて議論する信頼感、③協働を推進する中でも緊張感を大切に運動がすすめられた、と締めくくられました。6時からのレセプションは計画を変更してアルコール抜き集会にし、会費を減額した分を災害の義援金にしましょうと呼びかけました。参加者79人。集まった義援金は27,725円。アルコール類に代えてコーヒーと紅茶のサービスをスタッフで用意し、来賓の皆さんにメッセージをいただき、会話ははずんで交流が深まりました。その日初のお目見えとなった『15年の歩み』の冊子も80冊が捌けました。





「若者による農業分野チャレンジ事業」を実施中

市内農家で4人が11カ月間の就労実習

花と緑のネットワークとよなか

花と緑のネットでは、5月から「若者による農業分野チャレンジ事業」を開始しています。この事業は、4人の若者を雇用し、市内の会員農家で作物栽培の実習体験を積むとともに、20回の講座や7回



のフィールドワークを受講することを通じて理論を学ぶものです。

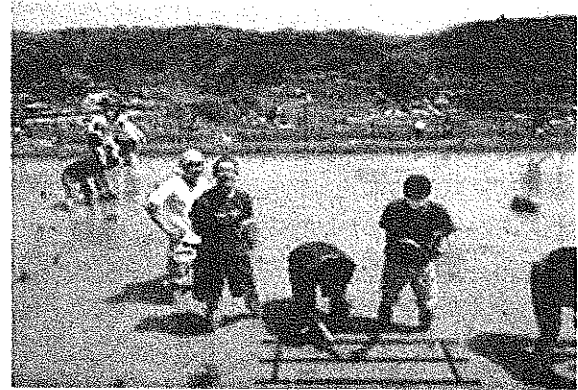
雇用に先立ち、諸手続きや採用上に必要な書類を整え、事業主登録を行って諸書類の申請を済ませ、4月末には市主催の合同面接会で4人の若者の採用を決定し、事業がスタートしたものです。

現在、4人の若者が元気に農業現場で実習体験に励んでいます。土作りや作物の植え付けなど、未体験の若者が主体です。日々、新鮮な気持ちで従事しているものの、暑い日や雨の日もあり、大変な経験を重ねています。また、先般はフィールドワークの最初として能勢長谷の棚田で「苗植え」を初めて経験。腰を落として丁寧に苗植え作業を行ってきました。秋の収穫を今から楽しみにしているそうです。最後まで続くか多少の不安を耳にしますが、スキルアップに繋がることを願い、就業先の農家と相談しながら職場環境の確保に努めています。とくに、人を雇用し、指導する農家の気苦労は想像を超えると

感じており、事務局との二人三脚での試行錯誤が続きます。

ところで、市内の農家は少ないのが現実です。豊中のような都市部で農業実習を前提に人を雇用して、未来の農業者を育てることは容易ではありません。一方、農地が少なくなっているだけに貴重な事業ともいえます。農業現場では作業の最中に気安く声をかけてくれる近隣農家の人も増えているそうで、刺激となればと期待がかかります。

この間、花と緑のネットでは、豊中市農業者経営協議会研究部会や会員農家と連携しながら給食食材への地場産納入や月2回の野菜市による地産地消活動を進め、都市部での農の再生と活性化に加え、食



育の観点から日本農業の在り方にまで思いを馳せてきました。今回の事業は、農業への再認識を深める機会であり、農業従事へ意欲を持つ若者と農家との思いを共有させながら、事業の成果が現れるよう、見守っていくことにしています。なお、予定する20回の講座は、有機野菜作りを基本に各界の有識者を講師に開催するもので、一般募集も行ったところ、約35人の受講希望者になっています。(中村義世)

とよっぴー農園における「農園楽」募集 8人が作業ボランティアに応募

緑と食品のリサイクルプラザに併設した「とよっぴー農園」(約1000㎡)では、児童や親子などを対象に「作物栽培や収穫体験」を通して農と食に学ぶ活動を進めています。

この活動、農園の維持管理や作物栽培に向けた準備作業、さらには収穫後の手入れなど、日々農作業が伴い、関係者の苦労が絶えません。

そのため、今年度は毎月木曜日に作業応援を求め「農園楽」の参加者を募集したところ、8人の応募があり、「とよっぴー農園長」の指導に基づいて精を出しています。

皆で汗をかくことを大切にしながら人と人の輪を広げ農と食における緑の下の活動を担うことにより、ボランティアに対する充足感・達成感を抱くとともに、作物栽培の知恵を学んでいただくことになる予定です。全部で29回の作業です。

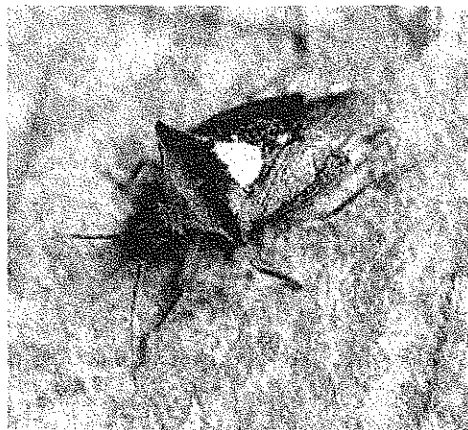


自然部会

写真による豊中の”むし”調べ2010

20世紀末まではこれらの“むし”がいたということ、きちんとした形で残しておかないと大変なことになる。21世紀が始まったところから自然部会の中で度々論議しましたが、なかなかまとまりませんでした。それからしばらくしてデジカメが急激に普及し、性能も飛躍的に進歩して高級なカメラでなくてもマクロ撮影で1cmまで近寄れるとか、望遠で10倍以上の撮影が可能になってきました。

そこで2009年度と2010年度の2年間、一般市民の皆さんに呼びかけて“むし”写真の募集をしました。集まった写真はプリント、データあわせて約2400枚。提出されなかったものを含めるとその何倍かの写真が撮られたことだと思います。

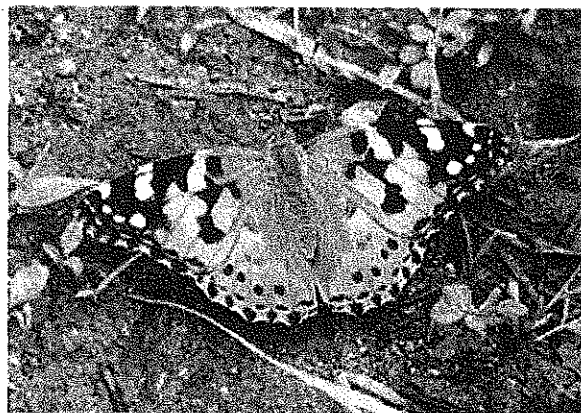


エサキモンキツノカメムシ (上新田)

提出された写真を同定し、整理し一応のまとめとしました。当然のことながら写真では同定しにくいものもかなりありました。一方で写真でなければ普段は見過ごしてしまうようなものも数多くあります。この中から100枚余りを拡大プリントしてあり、ご希望に応じて学校・公民館に貸出展示しますのでお申し込みください。

この2年間の写真による“むし”調べが、21世紀初頭の豊中の貴重な“むし”の資料になるものと思っています。(山口壽)

この調査は、昨年度に引き続いて行ったもので、821個体、214種の“むし”写真が集まりました。昨年度の結果と比べると、個体数で約760、種数で約100減少しています。これは、昨年度精力的に写真を撮った参加者が、昨年度と同じ種類の“むし”を見つけた場合、撮影や提出を控えたためではないかと考えられます。ただし、昨年度はほとんど提出のなかった市域南部からの写真も多く寄せられました。そのため、昨年度の写真とあわせると、



ヒメアカタテハ (新千里西町)

やや偏りはあるものの市域全般からの情報が得られたこととなります。

2年度分を合計すると、2399個体、408種となります。市域を6地区に区分した地区別では、千里地区が最も多く、北部地区・東部地区と続き、最低は中西部地区でした。グループ別確認種数では、大きくて目立つチョウ・ガの仲間が101種といちばん多く、甲虫の仲間が78種で続きました。地区別グループ個体数では、地区ごとにやや違った傾向がみられ、千里地区がチョウ・ガ一甲虫一カメムシの順に多かったのに比べ、北部地区ではチョウ・ガートンボ一甲虫の順、東部地区ではチョウ・ガ一甲虫一バッタ、中西部地区ではチョウ・ガ一ハエ・アブ一甲虫でした。

また、希少種リストである大阪府レッドデータブック掲載種の中から、6種の写真が寄せられました。それらは、比較的良好な環境が広く存在する千里中央公園や服部緑地、東泉ヶ丘地区で確認されたものです。

これらの調査結果は、これまで自然部会などが集積したデータとともに整理してデータベースを構築し、豊中の自然の現状を把握し、今後の生物多様性保全のための基礎資料とする予定です。(柿本修一)

写真による
豊中の”むし”調べ2010



2011年08月
NPO法人 ともなかと環境保全会 編集 ぶんどう 21 02 発行

(冊子是一部100円 会員は無料)



生活部会

第4回わいわいクラブ

2月16日、今回で4回目となる“わいわいクラブ”のテーマは「ウール素材で作るあったかティー



コゼー(ティーポットの保温カバー)。

前回の「紅茶と上手につきあう方法」の参加者の中から「次はティーコゼーを作りたいね。」という

声があり、アジェンダ職員の大村さんを講師に、かわいいワンちゃんのティーコゼーを作ることになりました。

2時間で作品を完成することができるか、まずはスタッフが着なくなったウール素材のコートやスカートを使って試作に挑戦。ところが思いのほか時間がかかってしまったため、途中までスタッフが段取りすることにしました。

当日は男性2名を含む10名の方が参加。針に糸を通すとき、思わず「やっぱり眼鏡がいるわ」という方や、慣れない手つきで黙々と針を刺す男性など…。皆さん一針一針ていねいに縫い上げ、予定の2時間でそれぞれ個性的なワンちゃんのティーコゼーが完成しました。最後に出来上がった作品を前に、紅茶を飲みながら、わいわいがやがや。

これからは家のティーポットには、かわいいワンちゃんがおすましすることでしょう。(畑洋子)

2010年のエコライフカレンダー活動のまとめ



生活部会でいちばん中核になる活動として続けられてきたエコライフカレンダーも、はじめられて11年になります。それは豊中版の環境家計簿の活動ですが、長い間続けられた150人余のモニターのがんばりには、まったく頭の下がる思い

がしていることから、今回のまとめは書き始められています。

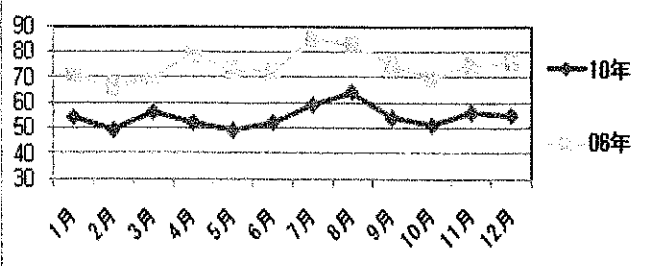
太陽光発電設置の補助金を受けてモニターになった方も年々増えて、合わせると2010年は300人に近いモニター数です。

そのように多くなったモニターのデータと組み合わせ合いをしている最中に、飛び込んできたのが東日本大震災に続く原発事故のニュースです。そして、この夏は節電がやむなくなるだろうというニュース

に、私たちが積み重ねてきた省エネ生活の経験からすると、家庭でも5%ぐらいの節電なら十分にできるし、その他のむだな電気を減らすなら、10%位の節電なら可能だろうと、そんな確信が今回のまとめを貫ぬいて書かれることになりました。

少しだけ中身を紹介しておきましょう。一般のモニターで5年間のガソリン消費量を追跡していますが、5年前と昨年とをグラフにすると、その差が歴然としています。省エネカーが増えたのと、車を持っていても使用の仕方が変わってきたのか、ずいぶんの省エネになっていました。(奥野)

06年とのガソリン使用の月別の比較 CO2/kg





2010年度の省エネ推進事業のまとめ

温暖化対策プロジェクト

地球温暖化対策プロジェクトでは、2008年度に豊中市の提案公募型委託事業として受託して以降、省エネ推進事業に取り組んできました。2010年度の主な取り組み結果について紹介します。

■省エネ相談会

アンケートの記入をお願いして 豊中市内の商店街やイベントで市民の方にアンケートで20項目の省エネの取り組みや電気代・ガス代等を記入していただき、アンケート結果の診断表（ソフトを使って出力）を渡すとともに、省エネのアドバイスをするという取り組みです。

2010年度は15回実施し、932人の参加がありました。

■省エネ診断

電気店がマイスターに登録する 研修を受けたまちの電気店などを「とよなか省エネマイスター」として登録し、省エネマイスターが家庭に訪問し、家電の状況を診断・アドバイスをするという取り組みです。診断は省エネマイスターの顧客や一般の診断希望者を対象とし、診断後に省エネ製品の買い替えを希望する方には、省エネマイスターのお店で対応してもらいました。

■二酸化炭素削減量の把握

前年のデータと比較調査 省エネ診断に参加した家庭には、診断2ヵ月後の電気代と、前年同月の電気代を記入するアンケートに協力いただきました。電気代を比較するにあたり、前年と当年の気候条件を同じとするため、総務省統計局の家計調査のデータに基づいてデータを補正しました。

その結果、53軒の1ヵ月の合計で、電気使用量は



1,444kWhの削減、二酸化炭素で425kgの削減となりました。もし、省エネ診断を受けた家庭に同様の効果があったと仮定すれば136軒で約1,091kg（約1トン）となり、仮に年間にするると約13,092kg（約13トン）の削減効果があったといえます。

■エコポイントチケット「とよか」の配布・換金 省エネ事業協力者にエコポイント

省エネ相談会、省エネ診断・診断後の買い替え・アンケートなどに参加した方には、内容に応じて豊中市発行のエコポイントチケット「とよか」を配布しました。配布枚数は合計で6,282枚でした。

「とよか」は1枚あたり100ポイント（100円相当）のチケットで、「とよか」使用指定店（加盟店舗数333店）で使用することができます。使用指定店で使われた「とよか」を、「豊中市地球温暖化防止基金」を原資に換金したところ、5,210枚が使用されており、使用率は82.9%でした。

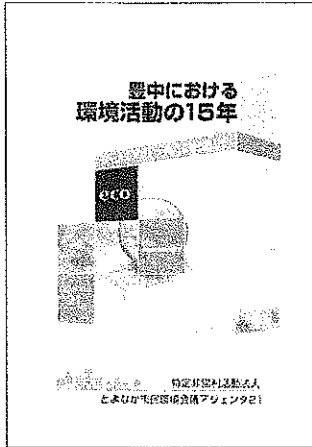
省エネ診断実施結果

種別	実施店舗数	診断数	買い替え					アンケート
			エアコン	冷蔵庫	テレビ	LED電球	合計	
顧客	4店	130軒	34台	10台	91台	12個	147	50軒
一般	6店	6軒	1台	0台	0台	0個	1	3軒
合計	※8店	136軒	35台	10台	91台	12個	148	53軒

※顧客と一般の両方を実施した店舗があり、実施店舗数の合計は一致していません

「豊中における環境活動の15年」3年間の労作が実を結ぶ

「ローカルアジェンダ21に取り組んで」とサブタイトルにある通り、運動は地球温暖化をはじめとした環境問題について市民・行政・事業者がローカルアジェンダを創るということばかり始まりました。



それまでの市民の活動は、行政が取り上げるいろいろな施策とは別に、要求を中心に自主的で個別に動いていました。そんなときに今までと違う、「協働」とか「パートナーシップ」ということばとともに、

ワークショップやKJ法での会議が始まりました。

アジェンダと呼ぶ101項目の行動目標ができ、とよなか市民環境会議の組織ができると、次には各部会が行動をもってアジェンダの実現を目指そうと、独自の活動を立ち上げました。学校ピオトープでは保護者も子どもも協力してみんなで造り上げることを経験しました。

環境家計簿や買い物袋持参運動などの新しい活動も協働によってスタートしました。

パートナーシップの現実としては、行政の担当者が事業者との間を取り持ちたり、行きがかりから事務局を担ったり、かなりの無理もあったでしょう。剪定枝のたい肥づくりや竹炭の運動も、そんな熱いエネルギーの中から、新たな試みとして取り組み始められました。それぞれの活動が熱気をおびて発展させられ、給食の残さからたい肥を造る「とよっぴー」の製造工場が造られ、「緑と食品のリサイクルプラザ」として今日にいたっています。

竹炭焼きの運動も、製品を作るだけにとどまらず、竹林整備にまで活動範囲が広がられて来ました。その経過が、詳細に跡づけられます。

市民の運動が新しく創られただけでなく、事業部会が取り組む機密文書のリサイクルも、病院連絡協議会の創意からはじめられました。

草創期から今日までの15年間には紆余曲折もありましたが、それらのひとコマひとコマは、今後の運動と組織のあり様を考えると、踏み台にもなる貴重な財産だといえるでしょう。

本は販価1000円。350ページを超える大作です。アジェンダ事務所にはまだ残部がありますから、ぜひ一度手に取って見てください。きっと参考書として座右に置いておきたい本です。（奥野）

環境とわたし 《29》

私を自然環境へと目を向けさせたのは二つ、羽鷹池周辺の開発と島熊山の移譲の問題とである。

以前は、林や池や田んぼが大規模団地になり、町が発展していくことに喜びさえ感じていた。

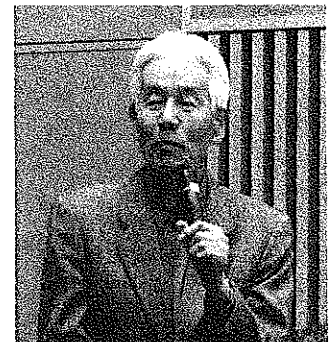
羽鷹池の周辺開発の頃から、貴重な豊中の自然が失われてしまうという危機感を感じだした。中国自動車道がなかった頃の羽鷹池周辺には、山あり池あり田んぼありの見事な里山風景があった。


クワガタやカブトムシ、タマムシなども捕まえることができたし、ウツボグサやオカトラノオ、イチヤクソウなども自生していた。豊中で二を争う里山が、幅広い自動車道で南北に分断され、続く宅地開発で自然は全く失われてしまった。キツネは棲みかを追われ、キジが卵を温めていた畑もなくなった。せめてこの地にあった代表的な樹木をと300本ほ

山口壽さん 自然部会

ど移植して貰ったが、夏の異常干ばつで生き残ったのはわずかだった。

もう一つは阪神淡路大震災後、島熊山をヘリポートも備えた防災拠点にするという計画。島熊山は大阪府企業局の所有で、帳簿上は宅地だった。豊中で唯一残されていた自然が、中国自動車道と同じ高さに削られ、山の中の古池も埋められてしまうという。署名運動と府庁への陳情を繰り返した。署名は半年で3万7千人。基地計画は断念させたが、次は宅地として売る計画。繰り返し陳情し、10年かけて豊中市のものにできた。私の方向はこのようにして決まった。

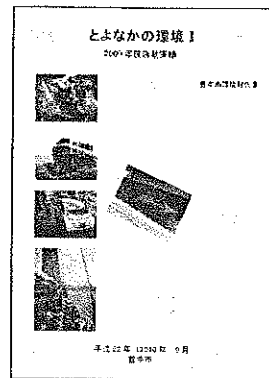


市内で活動している市民団体・事業者・NPOのみなさんの 

平成22年度(2010年度)の環境活動をお知らせください!

毎年、9月に発行する市の環境報告書「とよなかの環境Ⅰ」では、市の活動実績を報告するとともに、あわせて前年度の市民団体や事業者の環境活動事例を紹介しています。

皆様からお寄せいただいた環境活動をまとめ、「豊中アジェンダ 21」の推進に役立てていきますので、ぜひ情報提供にご協力をよろしくお願いいたします。



●ご回答方法

「とよなかの環境Ⅱ～2009年度評価と今後の展望」(H23.3 発行) 巻末の『環境活動状況記入票』にご記入のうえ、6月30日(木)までに環境政策室あてお送りください。市のホームページからダウンロードもできます。(トップページ→くらしのガイド「ごみ・環境」→「地球環境とまちづくり」→環境基本計画・報告書)

メール・郵便・ファックスのほか、直接お持ちいただいても結構です。

【提出先】豊中市環境政策室地球環境チーム(〒561-8501 豊中市中桜塚 3-1-1)

お寄せいただいた事例は、9月に発行する「とよなかの環境Ⅰ」に掲載します!



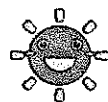
夏の省エネルギーキャンペーン 5/16～10/31

省エネしながら、夏を快適にすごそう!

クールビズ

CO₂削減のため冷房時の室温を28℃に。その中で快適に過ごすための様々な工夫が「クールビズ」です。

今夏は、東日本大震災に伴い、これまで以上に節電の取組みが求められています。豊中市はクールビズの期間を例年より延長し、5/16～10/31の間、実施します。軽装スタイルで、1人ひとりが工夫して節電しながら、夏の電力消費のピーク(平日 午前9時～午後8時)を抑えましょう。



太陽エネルギー利用設備を設置しませんか?

家庭生活中で排出される温室効果ガスの大幅な削減に効果がある、太陽光発電システム・太陽熱利用システムの設置に対する補助を行っています。

■対象=個人住宅(太陽光発電システム・太陽熱利用システム)

分譲共同住宅(共用部分用に太陽光発電システムを設置する場合)





■内容=「太陽光発電システム」太陽電池の出力1kWあたり3万円、個人住宅は上限12万円、分譲共同住宅は上限60万円まで補助。「太陽熱利用システム」設置費用の5分の1、上限6万円まで補助。





■募集期間=平成23年(2011年)5月2日から平成23年(2011年)12月22日まで。ただし、先着順で受け付け、申し込みが予算額に達した時点で終了。

※いずれも着工前に申し込みのこと。

問 環境政策室 6858-2127

スケジュールのお知らせ

-  **おもちゃ病院 (6月、8月)**
第2土曜日 10時~12時
環境情報サロン
-  **とよっぴー有料頒布 (6月~9月)**
第2土曜日&第4水曜日 10時~11時
緑と食品のリサイクルプラザ
(7月の水曜日と8月の土曜日は休みます)
-  **自然学習講座**
「カラスのねぐらとそれにかかわる生態について」
7月9日(土) 14時~16時
くらしかん
-  **連続学習会 災害と環境**
第2回「震災・ごみとのたたかい」
7月15日(金) 13時30分~15時
環境情報サロン

-  **千里川魚類調べと生き物観察会**
7月16日(土) 9時~11時30分
阪急豊中駅人口広場集合
5歳以上の子どもから大人まで40人
雨天の場合は24日(日)に延期
-  **自然ふしぎ発見クラブ**
「セミの羽化見てみませんか」
7月30日(土) 18時30分~20時
千里中央公園管理事務所前集合
-  **豊中まつり協賛**
活動パネルの展示、
自然工作、竹炭・竹酢液の頒布など
8月6日(土)、7日(日)
環境情報サロン
-  **竹炭焼き、竹の間伐**
毎月実施、詳しくは事務局まで

編集室から

▼震災以来、心の琴線に触れる話が好みになった。被曝線量の理屈についても気になるが、原発内での超3Kの下請け労働者の気持ちの割り切りとか、内閣府に入った若いジャーナリストが5キロも体重を減らしながら避難所向け壁新聞を書き続けているとか、今はそんな生き様を見つめ語り合いたい。(Z)

▼久しぶりに島熊山の整備に参加した。林内は明るく竹間伐で汗を流した。作業を終えくつろいでいるとコゲラが巣づくりをしているのを発見。枯木に穴を掘っている。休まず黙々と。こんなに間近で見たのは初めてなのでうれしかった。(H)

▼思いもよらず、心臓の大動脈弁を除去して人工弁を入れ替える手術と冠状動脈のバイパス手術をうけました。病気が分かったのは勤務していた会社の社内検診でした。それまで自覚症状もなかったので、

手術前日に執刀医からいつ発作が起きてもおかしくないとされたときは愕然としました。社内検診で命が救われたと、しみじみ思いました。(S)

▼我が家の3歳になる末っ子に、「だれが、一番好き??」と聞いたところ、「え~っとね、納豆とママ!!」と嬉しそうに言われました。ママと納豆は同じくらいの立場なんだね…。しかも、納豆の方が先なんて、悔しい(泣)(K)

▼東京在住の友人が自宅でガレージセールを開催。3月の大震災で決心。いかに無駄なものを抱えているか見直す機会になったとか。「これ要らない?」届いた写メールはきれいなクリスタル。「欲しい~」彼女の要らないものが我が家の無駄なものになりそう…。とはいえ売り上げは義援金に。(P)

アジェンダ会員募集中!!
あわせて、ニュースレターの作業ボランティアも募集しています。お手伝いいただける方は、事務局までお知らせください。

TEL: 06-6863-8792

《広報チーム》
Z奥野、H岡、Y小村、S猪尾、A廣田、K辻岡、P大村

<http://toyonaka-agenda21.jp>
Eメール ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp